

セーフティ増刊号

論文応募作品

事故0を目指して、

実行している事

鈴木 正明



最近の事故報道等を見ていると安全マニュアル無視が目立つ。「この程度の手抜きをしても事故にならないだろう」と言う自己中心的で、間違った判断、又は安全マニュアルすら設定していないとか、マニュアルがあっても現場担当者に教育、伝達さえしていない大きな手抜きで、死傷者が出る重大事故が多いと感じる。それらの報道等の最後には「再発防止や安全管理の徹底を要請した」「・・・徹底を図りたい」と言う文章で締めくくられている。

安全管理の徹底などは事故後に徹底すべき事ではなく、毎日の業務の中で考え、実行して行くものだと思っているので、私がいつも心掛けてお話をします。

一、自分の心の管理

「仕事以外の悩み事は仕事に影響しない様解決しておく。」例えば、家庭内や知人等の人間関係の不協和、ギャンブル等に熱をあげていたり、無計画な借金を抱えているなど、他にも事例は沢山あると思うがこの様な悩みを抱えていると「何を聞いても上の空」になりやすい。気持ちが仕事場から離れている状態にならないようにしている。安全の為に職場に私的な悩み事は持ち込まない様にしている。

二、自分の体調管理

充分な休養、適度な運動そして従事する前に自分の健康に害を及ぼす事は極力排除しています。例えば「喫煙」や「暴飲暴食」ですが私は現在、禁煙中です。禁煙する前までは煙草大好き人間でしたが、煙草が原因で入院したこともありました。私の経験では、禁煙前と後では病気になる欠勤が半分以下になりました。余計な事も知れませんが、愛煙家の皆さん自分自身の健康の為、煙草を辞めてみませんか。健康になりますよ。

私の施設は出入管理時間が長いのでどうしても運動不足になりがちです。ですから

休日の運動は欠かさず行っています。健康管理でも一つ大切な事は人間ドックの結果です。再検査等、結果を放置せず、自分の体を進んで守る様にしています。

※勤務施設に到着し実行している事

一、平常心を保つ(焦らない)

以前、勤務中に自動車の接触事故を起こした事があります。直接の原因は後方不注意でした。しかし一番の原因は平常心を忘れている「自分の心の乱れ」がありました。オーナー社員に急用で「00時まで客との約束があり邪魔な車をすぐ移動して欲しい」と言う要請があり、すぐ現場に走って駆けつけ移動しようとした際に、後方を確認したつもりでバックしたら後部にまだあった車輛にぶつかってしまいました。心の焦りが事故を引き起こした時の反省から職務中は決して焦らず、注意深く冷静に周りを見渡し常に平常心を保ち行動する様にしています。また、日頃は車の駐車しない場所なので、今回も「車はないだろう」と言う安易な思い込みも事故の原因だと思えます。

二、安全確認にやり過ぎは無い。

「安全だろう」「多分、大丈夫」の様な不確実のまま仕事を進めないようにしている。「念には念を入れて」と言う慎重さが事故を未然に防いでくれるはずですが、冬は路面が凍結すれば融雪剤をまき道路の安全を確保します。その際、融雪剤をまいたから安全だろうではなく、自分の足で注意深く歩きながら必ず安全を再確認します。私の施設ではドア開放や未施錠などがたまにあります。これらを見落としたり、その不注意自体が事故につながります。その不注意が犯罪者に隙を与えたりしないように重大な責任を感じます。

過去の事例で巡回点検の際の下の足元暖房に使用していた電気ストーブの消し忘れで椅子もきつちり机に収められていてもう少して発火直前と言う異常を発見した事もありました。数百回、数千回巡回した内の一つの異常かも知れないが、もし見逃していたら大きな事故、大惨事になっていたかもしれないと思うと今でもゾッと頭から離れない思い出となりました。

私は警備員として「事故0」を目指して次の事を今後も実行し続けていきます。

- * 体調を整え、仕事に集中できる環境をつくります。
- * 冷静な判断や、行動ができるよう平常心を心がけます

* 慎重過ぎる位、慎重に安全の手抜きはしない。

* 職場の整理整頓が「事故0」の第一歩これらの事を基本に私の施設が安全に事故0をいつまでも継続出来る様私は頑張っていきます。

論文応募作品

労働災害防止について

芝 勝也



労働災害の発生件数は山形県全体でみると、長期に渡り減少していましたが、昨年は労働災害による休業4日以上以上の死傷者数が1297名を数え、10年ぶりに増加

ポスター応募作品

副主任 三浦 二男



昨年度に引き続きの展覧です。二年連続金賞なるか？



標語応募作品

日々の呼称で高まる意識 重ねる努力で無災害

副主任 揚妻 貞二



マニュアルは災害防止の誘導灯 しつかり確認ゼロ災害

副主任 伊藤 晴彦



安全は、目配り 気配り 思いやり。

佐竹 健悟



身に付けよう 労災を未然に防ぐ技と知恵

江口 秀則



時間の余裕は心の余裕 少しの余裕が命をつなぐ

飯澤 信幸



やったかな やったはずだは事故のもと 再確認で憂いなし

警備課 課長代理 原田 清夫



してしまつたとの事でした。しかし、昨年度の8件に対して大幅な減少をしたとの良い報告もありました。我々は、と言います。社員全体が「労災0」を永久的に取組まなければならないテーマに掲げ取り組んできました。

私は、ある工場の施設警備業務に就いていますが、労災防止について考えてみます。まず労災0の意識を高めることが大切だと思います。よく、工場や建設現場、運送会社等で「安全第一」の看板を見かけますが、これも意識を高めることの一つだと思います。私の施設では、ロッカー室の見易い所に「安全運転の誓い」を貼り、勤務前に唱和しています。内容としては、

一、安全速度を厳守。二、安全確認の徹底。三、ゆとりと思いやりの運転の励行。四、今日も一日無事故運転を目指す。等、交通安全のスローガンですが、これらは労働災害にも当てはまる内容だと思えます。例えば、安全速度という制限や時間のゆとり・心のゆとりが無ければどうなるでしょう。巡回中、いつもより機器の異常が重なり、点検箇所が多くなり、時間が遅くなってしまう、急いで階段を走るように下りま

した。あつと思つたら、滑って転倒し怪我をしてしまいました。また、安全確認をしなければ扉の後ろや通路の曲がり角で他人とぶつかつたりします。また、建物の傍ら歩いていると上からの落下物や冬期につららが落ちて怪我をすることも起こりかねないと思えます。それらは交通安全のみならず、「今日も一日、無事故で」という願

いである目標が安全意識を高めてくれると思えます。そこで私が普段から労災撲滅の為に取組んでいる対策を挙げてみます。

一、情報を共有すること。よくヒヤリハット事案と言われていますが、自分が危険を感じた事案があれば他人も必ず危険に曝されるはずですから、いかに早くそれを周知できるかが大切なわけです。もちろん自分も他人の情報があれば事故を防ぐことにもなります。ですから、同僚と密に引継ぎを行うように心がけています。もちろんこれらはヒヤリハットに限らず、危険と思われる全てのことに必要です。しかし、危険と思わない事、危険に気付かない事が危険な事です。危険のサインを見逃さない洞察力も養わなくてはなりません。また、オーナー側にも協力頂き日々変化する危険箇所の情報を共有し合う事で危険箇所

を少なくし、施設内の全員が安全に作業でき労災も無くす事が出来ると思えます。二、平常心を養うこと。我々警備員は時に突発的な事件や事故に遭遇する事があります。その時に適確な行動が出来ずに焦って転んだ・滑った・落ちた等の事故に遭う事があるかもしれません。ですから、普段から事件や事故が発生した時、どのように行動するのか想定して、常に安全に正確に行動出来るようにする事が肝要だと思います。その為には、マニュアルをよく理解し忠実に守る事です。機械警備や自火報、設備監視盤等の発報時や巡回業務等の様々なマニュアルが有ります。これら全ては合理的かつ適正で安全に行動出来るものです。ですから自分勝手に手順を変えたり、省いたりするとまいったく意味の無いものになり、事故も起こってしまうこともあります。

三、健康管理に注意すること。私達警備員は年二回の健康診断を受診していますが、何か異常があれば必ず再度受診し治療する事です。また、軽い風邪や疲れた体では知らない内に仕事に集中力が無くなり、事故に遭う事があります。やはり休日

は体をゆっくり休ませたり軽いスポーツ等をしてリフレッシュする事も必要だと思えます。

四、通勤時の事故も注意。出社時は時間に余裕を持って出発し、ゆとりある運転に心掛ける。また、勤務が終了した時は体力も神経も疲労し、早く家に帰りたいと思つたり、開放感からほつと気が抜けてしまつたりすることがあります。そこで、家に着くまではもう一度気を引き締め、帰宅するまで安全運転を忘れないようにしています。

この労災撲滅の対策で、これで「完全」

という事は無いと思えます。しかし、私自身も集中力を高め、変化に気付き、対応出来る力を高めること。また、皆で協力し意識を高めて常に快適な環境は何かと考え実践していく事で「完全」に近づける事が出来ると思えます。これからも私は労災を無くす事はもちろん、同僚や私の勤務している施設の方全員が安全で快適に、そして労災に遭う事が無い様に守っていききたいと思えます。